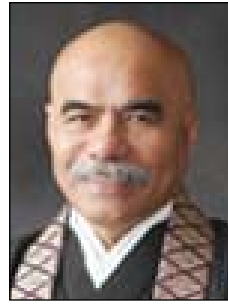




本派本願寺羅府別院 輪番法話



輪番 ウィリアム ブリオネス

浄土真宗と「お祈り」

宗門は同信の喜びに結ばれた人びとの同朋教団であって信者はつねに言行をつつし...

私が病院訪問の依頼を引き受けるようになってからしばらく経ちます。LACSのメディカルセンターに入院している仏教徒の患者やその...

そうしたお仕事を引き受けるようになってくると、病院から連絡を受けました。それはベトナム人のご家族からの要望で...

から懇願され、私は断りきれなくなりました。病院へ向かう途中の頭の中は「ご家族に何が...

ご家族にお会いしてお悔やみを述べると、ご家族は亡くなった方についてお話をしてくれま...

仏教と一口に言っても実にさまざまな宗派が存在しますが、その多くが祈願や祈禱を取り入...

冒頭にご紹介したのは浄土真宗の教えの肝要が示されている浄土真宗本願寺派の「教章」の...

浄土真宗とその他の仏教との違いが最もはっきりとあらわれるのが「お祈り/祈願」というものに対する立場であると言えるのではな...

(二面へ)

L.A. Hompa Hongwanji Buddhist Temple 815 E. First Street Los Angeles, CA 90012

【各ページ案内】 一頁 総合 二頁 「この話ご存じでしたか」 三頁 法話



西カブスカウトより

西別院のカブスカウトたちは頑張っています！約2ヶ月間、コロナ禍での活動は非常に困難を伴いますが、元氣溢れるスカウトの子どもたちとその親御さんたちはオ...

羅府別院理事長より



理事長 田端 パメラ

土曜日は西別院BCCの主催で小谷先生の法話会があります。何かと忙しい週末を空けるのには少し苦勞をしますが、思い返せば海野先生のクラスを土曜日に取っていた頃、一度も席に着くことを後悔したことはありません。

私が若い頃にお聴聞を始めた海野先生のお話は、その最後の法座まで興味深く聴き入っていました。先生のお話はいつも私の理解度を越えたものでしたが、それでも先生の声に聞き入りました。あれから年月が経過し、当時の記憶は他と共に底に沈みました。しかし、今度は他の先生たちが度々繰り返して力説される仏法に浴びていると、昔両親が「歳を重ね...

遊びの時間、地域のボランティア活動への参加などです。今後は科学館への見学も計画しています。

今度、カブスカウトではパインウッドダービーを主催します。毎年恒例のこのレースでは、子どもたちが親御さんと協力して木製の小さな自動車を作りそれらを競争させます。親子で楽しめるイベントなのでみんな楽しみにしています。カブの子どもたちは競争させる車のデザインを一から描いて、制作と装飾を学びます。車の制作過程もレースと同じくらい大事なポイントです。レース自体も盛り上がりやすいので、興味のある方のご見学は大歓迎です。

西カブスカウトでは家族で楽しめる活動を重視しています。子どもたちほどの活動でもベストを尽くすことのできたい自分に成長していきます。様々な学びと目標達成を経験することは、きっと子どもたちにとっての人生の宝物になることでしょう。西カブスカウトの詳細は西別院のホームページ (https://nishipec738.weebly.com) をご覧ください。11歳未満のお子様を対象になります。

てわかることも増えてくる」と言っていたのを思い出し、今はその言葉の意味が骨身に染み渡ります。

一方で小谷先生との出会いは、私がLABCCのキャンプに参加し始めた頃に遡ります。まだ十代そこそこだった当時の私は、勝手に先生のお話を当時流行したヒッピーの考え方に重ねて受け取ってました。さらに今なお、先生は先日の法話会でも当時と同じように私たちに語り掛けてくるのです。まさに一瞬、先生の人生に対する考え方にうなずける点が多いと思つた瞬間、突如、私は先生に洗脳されていると思ひ始めました。たしかに、先生が今まで人生について語ってきたことの多くは、今の私が思っている事と重なります。早速帰ってすぐ、息子にそれを伝えてみると息子は笑って「それは悪い事なの？」と尋ねてきました。もちろん、私が先生に洗脳されているなら私の息子だって小谷先生に洗脳されていることになりません。それをそのまま息子に伝えて、私たちはひとしきり笑いしました。私は先生に洗脳されているかもしれない、そんな考えが反芻するうちに私の疑問は自ずと晴れていきました。(二面へ)

【三月・四月のご法縁のご案内】 *社会情勢に応じて、急遽内容を中止・変更する場合がございますのでご了承ください。

永代経祥月法要 (於 *ハイブリッド) 三月十三日 (日) 午後一時

春季彼岸セミナー (於 *ハイブリッド) 三月十九日 (土) 午前九時半 (予定) 御講師 菅原 祐軌 師「オレゴン仏教会」日本語

春季彼岸会 (於 *ハイブリッド) 三月十九日 (土) 午前十時 御講師 菅原 祐軌 師「オレゴン仏教会」日本語

別院花祭り (於 *ハイブリッド) 四月三日 (日) 午前十時

ロサンゼルス仏教連合花祭り (於 *東本願寺別院) 四月十日 (日) 午前からお昼

永代経祥月法要 (於 *ハイブリッド) 四月十日 (日) 午後一時

BCC仏教法話会「安心論を学ぶ」(於 *オンライン) 三月三日 (木) 午前十時

日曜礼拝 (於 *ハイブリッド) 毎週日曜日 午前十時

【この話ご存知でしたか】増山栄子

翻訳 伊藤千鶴子

『本派本願寺ロスアンゼルス別院1905-1980』98-99頁

「別院の運動部」

ミッツ さかにわが現在のスポーツ競技会(1980年)の主要な立案者と思われていたが、第二次世界大戦後の運動部は、みんな おおたという日曜学校の教師によって始められました。みんなは、1950年代後半、新しく結成された地域青年評議会が支援するバスケットボールリーグに参加する為、日曜学校の男子たちを集めました。当初のチームメンバーには、ノーマン おさき、ウエスリー おさき、グリーン きし、マイク みやもと、バリー たんばら、デイブ なかがきが居ました。後にノーマン おさきはその活躍によって、シニアバスケットボールリーグの傑出した選手としてくにとみ記念トロフィーが授与されました。もう一人くにとみトロフィーを受賞した「ワンジ」が居ます。彼の名は、1967年にトロフィーを受賞したドン なかにしです。

CYCプログラムは急速に拡大していき、別院の運動プログラムもそれに伴って成長しました。野球の競技もすぐにバスケットボールのプログラムに組み込まれて、やがては年齢別にいくつかの部が誕生しました。別院のチームは当初「Wash」と名乗っていましたが、後に名前をHonswanjiから変えた「Wanjū」に変更しています。CYCプログラムの成長に続きロスアンゼルスオプティミストが女子の為に運動プログラムを始めたので、別院はすぐにそれに参加しました。ノブ おきをコーチとし、女子たちは早い時期から強豪のソフトボールチームに成長しました。その時期のWanjūesの女子には、リンダ かたせ、ゲイル すきもと、シャロン たなか、かめい みち、しみず えみ、アイリーン わたなべ、デビー おき、ローリー みずの、フェイス さかにわ、そしてエイプリルとベブ 荒谷がプレーしていました。ダナと呼ばれる年少向けの女子チームも結成されましたが、最終的にはすべてのチームがソフトボールリーグとバスケットボールリーグの両方でWanjūesに統合されました。

ブッディストライププログラムの計画案が提出された際、ミッツ さかにわは夏季開催のバスケットボールリーグを提案しました。このバスケットボールは、遠くはオックスナードからの年少少女たちも巻き込んだリーグへと発展しました。現在のこのリーグに参加している仏教会は、ガーデナ、ベニス、パサデナ、サンバレー、オックスナード、東本願寺、ハリウッド、洗心、ウエスト「A」と西別院になります。合計で約五百人の男子と女子が各々にチームを構成しています。このリーグの運営は参加している仏教会で毎年プログラムの議長が交替する

為、安定的な運営がなされています。

次第に運動部の活動は大きくなっていったため、いよいよミッツだけでは手に負えない組織になりました。近年ではおがわ ます、おきもと、じゅん、ロジーン、の、ウォルター、くにもとが活動のさまざまな部の管理を手伝ってくれていました。特に宮川 エイミときしよしこの両氏は、長年ミッツをサポートして下さりました。

結成当初のワンジのチームはたくさん印象的な功績を残しました。1920年代に組織された野球とバスケットボールのワンジのチームは、日本人としてスポーツ分野で多くの活躍をみせています。記憶がやや曖昧ですが、今でもブッチ たむら、ジップ とやま、みやもと、ゆく、フランク さかもと、エド、くりしま、いしぞう と、べんじ、さの、スキッシュ、おさき、こばやし、ゆきお、やまもと、よねと、かたおか、よねと、いしはら、みのるの名前を憶えています。彼らの野球コーチはさわだ、くにぞうでした。ジギー、かくは彼らのマネージャーであり、後にワンジ、ジュニアでバスケットボールをすることになったリチャード・カクはバットボーイを担当していました。

ワンジの球児たちの多くは後に「ミニッツ」でプレーし、これはおそらく最初の地元の二世セミアプロ野球チームになります。

ワンジの後に続いたワンジは、別院の誇り高いスポーツの伝統を見事に受け継ぎました。彼らは南部地区の仏教スポーツプログラムで長年チャンピオンの地位を保持し、野球とバスケットボールの両方で常に「A」で雄を争っていました。

ワンジのメンバーは、ます なかむら、トシユ、な、かむら、たにやま、ひろ、シグ、まさだ、ノブ、まさだ、フランク、まさだ、おがわ、さいち、ケン、うえずぎ、ジョージ、いとう、ベン、おだ、マス、みやもと、リオ、かしわぎ、リチャード、かく、ノブ、いしたに、トシユ、ほさき、テッド、ほさき、こおち、つとむです。

一方、1930年代後半では女子たちも頑張っていました。彼女らはバレーボール、ソフトボール、バスケットボール、卓球等々の幅広い競技に参加し、男女混合の試合に於いても男子に引けを取らず、常に仏教リーグと「W」のチャンピオンシップの戦いの真っ只中にいました。カール、さとう、コーチ率いるチームの顔ぶれは以下の通りです。リリー、いのうえ、うめだ、すみこ、かたおか、とよこ、なかむら、みえこ、ながた、としえ、ふじた、はるこ、おさき、あいこ、ドロシー、ほりうち、やました、としこ、にしだ、ゆきみ、さとう、ていこ、おはし、えひも。

戦後の活躍については、別院史上最も好成績のソフトボールチームに数えられるサム、くらとみ監督率いる「別院バックス」を忘れてはいけません。彼らは1948年から1950年まで「A」大リーグ選手権でチャンピオンに輝いています。また、1947年では「The Minuteman」においてAの成績を収めています。他功績として

は、1947年の「BA」選手権、47年と48年の全教会リーグ選手権が挙げられます。Bess優勝戦メンバーは、おき、のぶ、あさの、トシユ、ことう、シグ、レイ、ことう、ティー、おくら、おしき、ヨシユ、ハリー、おか、ジョージ、いしたにでした。

感謝録 以下の方々の寄贈に感謝します。テリー、いとむら様、図書室への本の寄贈。中原節子様、西資料室へのバインダーの寄贈



1966年 ダナバスケットボールチーム

左から右へ：
リンダ、かたせ、シャロン、たなか、かめい、みち、リ
ンダ、荒谷、輪番、升岡、
エイプリル、荒谷、しみず、えみこ、テリー、宮川、
スーザン、ふると、フェイス、
さかにわ、コーチ、宮川、エイミー、コーチ、しみず、
かずお

1963年か ワンジ野球チーム
後列
杉本、シグ(コーチ)、ロイド・カネコ、ロバート・ホ
リ(?)、ジーン、すきもと
ドン、なかにし、メルビン、はら、ロイ、みなみ、不
明、スタンリー、かたせ、
クライド、いわた、不明、ケニー、わたなべ、ハワード
高田(コーチ)
前列
不明、不明、ブレイディ、荒谷、ロバート、おだ、マイ
ルズ、やまぐち、不明、不明、
ダグラス、せら、キース、さかにわ、不明、ブライアン
宮川



(一面、輪番続き) 私たちが宗教に求めるものは何でしょうか。生活の中で私たちはさまざまな希望や夢をもっています。夢をもちその夢を叶えたいと思うのは誰もがもつ自然な思いです。その希望や夢を実現してくれるもの、あるいは実現する方法を示してくれるものとして宗教に期待をするのではないのでしょうか。そしてその期待に応えるために多くの宗教はあらゆる形でその方法を示してきました。そのひとつが「祈り」です。「祈願」は最も古くから存在する宗教的行為であります。

それにも関わらず、「教章」が示すように浄土真宗はそうした祈りや祈願から完全に訣別した教えであります。ここから私たちが教えられることは、仏教とは物事を自分の思い通りにする手助けをしてくれる教えではなく、縁起の道理を私たちに教える教えであるということではないでしょうか。私たちが「願いをもつ」ということは、それがどんな願いであり、どれだけ真摯なものであっても、結局は物事を自分の思い通りにしたいという欲求に基づいているという、その事実を目を開かせるのが仏教のはたらきなのです。

仏教には幸運な出来事も不幸な出来事も存在しません。すべての物事が縁起の法によって生じた果であり、次の事象を生み出す因となるのみです。したがって、ある出来事が不幸なものであるかどうかは、その出来事そのものの本質にあるのではなく、私たちがその出来事をどのように見、どう受け取るかによって定まるのです。そのことに気づかずひたすら自分に都合のよい世界だけを追い求めることが実は苦しみや不満を生み出している原因である、そのことをはつきりと私たちに示してくれるのが浄土真宗の教えなのであります。

私たちの行動は人を越えた存在に審判され評価されるものではないと断言。また絶対的に正しい行動、あるいは誤った行動というものもありません。すべてが私たちがどう考え、何を言いつて、どう行動したのか、ということの結果です。そしてその結果が今度は何となつて私たちの次の瞬間を決定するのです。私たちが今どのように人間として存在しているか、それはこの連続の結果なのです。

だからこそ、縁起の道理に目覚める時、起こった出来事をわが人生として引き受けて生きていく強さが自分の中に生じていることに気づくことができるのです。それは仏教の智慧と慈悲のはたらきから賜ったものであり、その時私たちは外的な何かに頼って幸せを得ようとする生き方から解放されるのです。人生の充足は私たちの行動の結果に依るのです。ですから、真宗の教えには私たちの思い通りになる生活や世界を実現してくれるような魔法も奇跡も、そして「お祈り」も存在しないのです。

私たちの生き方を転換させるような大きなはたらきを浄土真宗の歴史を通して私たちが阿弥陀仏としていたいてきたのです。ですから阿弥陀仏とは私たちの願いを聞いてくれる存在でもなければ、創造主でもありません。私たちを見守り、時には裁く神のような存在でもないのです。智慧と慈悲のはたらきが形をとって表現されてきたのが阿

弥陀仏なのです。

それは念仏が阿弥陀仏に私の願いを叶えてもらうための呪文ではないということと同時に私たちに教えてくれています。さらに言うなら、念仏とは覚りへと私たちに導いてくれる善行でもありません。仏の御名を称えるのは、私たちの身から溢れ出る感謝の表現に他なりません。自分自身の人生に苦しみを与え続けている私たちが、その誤りに気付いてほしいと阿弥陀仏から呼びかけられている、その呼びかけへの応答です。南無阿弥陀仏を称えるのは確かに私です。けれどもそれは私をして南無阿弥陀仏を称えさせる仏のはたらきに出遇ったということの証明なのです。

念仏が私たちの生活の上に確かにほたらきとくとき、日常生活がまさに仏道そのものへと転換されていくのです。

南無阿弥陀仏

【最近の別院の写真】お正月のお荘厳には、門松とお重ねのお餅を阿弥陀様にお供えました！写真では見えずらいですが、日本ではお馴染み深い梅の花です。ロスでは貴重なんですね。



グジジョブ、アバソニックス！



今年の1月9日、BCA本部の伝道部門であるCBEが主催したオンラインショーケースに西別院からアバソニックス(ABA Sonics) が出演した。メンバーは「Can't Take My Eyes Off Of You」他一曲を披露。動画はCBEのYouTubeチャンネル「BCA JAMs 2022」で視聴ができる。(https://youtu.be/D1_A37RmiGw)

「法味楽」味わう×楽しむ＝仏教

如是我聞



駐在開教使 村上 響

「方上記。鴨長明。ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。」

子供時代、私は近所にあった学習塾に通っていました。近所と言っても、自転車で行く必要があるくらいは家から離れてしまいましたが、それでも子供のペースで漕いでせいぜい数十分くらいの距離です。そこでは、右に出しているような古典を一読覚えて、塾の先生の前で暗誦する宿題がいつも出されてきました。右の他には徒然草、平家物語、春の七草や干支など、小学生の低学年には少し難しい内容のものを当時は意味も解らずにただ一生懸命命声を出して音読し、暗唱できるまでそれをやっていた。たとえそれが嫌でも、塾の先生にそんな言い訳は通用しませんから、宿題は宿題として取り組みました。その結果、今でもうちいくつかは空でも言えます。

日本の学校で国語の授業の定番と言えば、ずばり音読でしょう。先生に指名されたら、呼ばれた生徒は指定されたページをめくって声に出して読み上げて他の生徒はそれを目で追います。実はこの方法、江戸時代の頃からありました。今から数百年以上も昔、庶民は寺子屋で読み書きそろばんを覚えて、生活に必要な教養を身に付けていました。当時の日本人の識字率が諸外国と比べて異常に高かったというのは有名な話です。その基礎があったのは音読のお陰と言えましょう。この勉強法の肝は、意味は分からなくてもとりあえず文章を声に出して読むということにあります。当時は、教科書として主に漢文で書かれた論語などを使っていたそうなので、言葉の覚えながら人としてあるべき道というのを学んでいたのかもしれない。

今、個人的にこの音読を見直しています。一時期、浴室などの音がよく反響する環境で英字の新聞を音読するのにハマっていました。そこだと自分が発する音がよく聞こえるので、発音を修正しながら英語に慣れることができましたし、様々な情報も手に入るの、まさに一石

三鳥の勉強方法だと思えます。個人的にはこの方法が一番効率がよかったです。これはおススメです。

また音読すると、頭で文字を読み取るのと同時に音が耳に入ってくるわけですが、この時、同じ文章に触れているはずなのに、文字を本のように黙読する時よりも、耳も使って言葉を理解する方が、一つの事柄をより深く感じ取れる気がするのです。要するに、目と耳と口を使って文章に触れているので、私の身体が言葉に包まれている感じがします。例えて言えば、電話で相手の音声だけを聞くより、顔を見ながら喋る方が相手の気持ちが伝わってくるみたいなのではないでしょうか。

ところで、元々仏教は僧侶たちが経典を声に出して暗誦することで、次世代に教えを伝授して来ました。そして、それらの経典は「如是我聞(私はこのように聞きました)」という一説から必ず始まります。「如是」とは、聞いた内容を疑わないという意味です。経典の書き出しが「如是我聞」から始まるのは、お釈迦様が説かれた教えを内容を曲げずにそのまま私は受け取っていますよ、ということを保証する一文なのです。親鸞聖人は如是の様に聞いたことを疑わない心が信心だと仰います。今はその意味が分からなくとも、いずれは分かってくるのが弥陀の他力のはたらきです。蓮如上人も御文章は、同行の間でとにかく読み聞かせられることを念頭に置いて筆を執っておられたそうです。

「ゆく河の流れは絶えずして。しかももとの水にあらず」の部分には年が経てば立つほど私の中で新鮮味が増しているから不思議です。簡素なメッセージ程深みがあるというでしょうか。お名号に育まれるというのは、いつもつかず離れずだからこそ後々に響いてくるのでしよう。

合掌

(一面、理事続き) 恐らくこれは、先生の話を受け入れる「機が熟した」と言うことなのでしょう。

先生はいつも、先生のお話を黙って聞く婦人会のあるご婦人のお話をします。曰く、そういった方はどの婦人会にも必ずお一人はいらっしゃるそうです。私はそれが誰なのかと想像しつつ、一方で、私がそういう風になれるのはいつになるかと考えていました。そして今、私はそういう聴き手になることを諦められる年齢になりました。私の我はあまりにも大きく膨れきってしまったのです。しかし、それでいいのです。それが分かった以上はありのままの自分に身を任せるしかありませんから。それを受け入れ、私はこれを仕方がないことだと思っています。そんなありのままの私を気付かせてくれるお話をいつもして下さる先生方に、今は深く感謝しています。

合掌